

い物に行くことが困難な方に対して、今年の6月から「みやたエイト」が営業を始めた移動スーパー・とくし丸。軽トラックを改良した車両には、惣菜や生鮮食品を入れる冷蔵庫も備え付けられており、およそ350種類の商品を載せ、地域を回っています。

6月21日には、「みやたエイト」と「社会福祉協議会」、「四万十町」の3者で、見守り活動に関する協定を締結しました。これは「みやたエイト」が、地域住民の買い物の利便性が良くなったことを通じて、住民同士の声掛け、助け合いの機会を図るとともに、3者が連携して地域の見守り活動を円滑に行っていくために結ばれたものです。

また、四万十町久保川で移動販売を行っている松下洋平さんは、買い物に行くことができない高齢者の方々に食料品などの生活必需品を届けています。松下さんの活動については、来月号の特集でご紹介しますので、ぜひご覧ください。



地域の足を支えるために。

学の足となっているスクールバスや路線バスが走っている一方で、病院や診療所へ行く方を送迎するため、病院や診療所が運行しているバスも走っています。路線バスの利用者が減り続けていく中、それぞれの路線の維持や、バス運行の効率化も課題となっています。



中学生

町内の中学校へ通学する際の路線バスの定期代、スクールバス乗車料は無料です。

【お問い合わせ先】
学校教育課 ☎22-2594

高校生

町内の高校に通学する際の公共交通機関の定期乗車券代を助成します。詳しくは四万十町ホームページをご覧ください。

【お問い合わせ先】
人材育成推進センター ☎22-3163

「四万十町高等学校通学費助成金」で検索

土線は、平成20年度の平均通過人員(1日1km当たりの利用人数)が280人と全国で6番目の少なさでしたが、平成28年度には、333人となり、利用者が減少する地方路線が多い中、予土線では回復傾向にあります。

しかし、昨年の西日本豪雨の被害もあり、運行状況は厳しい状態が続いています。路線を守っていくためには、地域住民だけでなく観光客も含め継続的な利用者の確保が求められています。



▲0系新幹線を模した「鉄道ホビートレイン」

◀JR打井川駅
近くにはバス停がありますが、駅のホームが高い位置にあるため、長い階段を上り下りしなければならないといった課題もあります。

地域の足をどう守る

シリーズ②/3

公共交通機関の現状

本町の主な公共交通機関である路線バスは、現在の11の路線で運行しています。その運行費用は、利用者からの運賃により支えられていますが、利用者は、人口減少とともに年々減ってきており、厳しい運営状況が続いています。町は、路線バスを維持していくため、事業者に対して赤字補てん(補助金の交付)を行っており、その金額は年々増え続けています。一方で、路線バスが行き届いていない地域の交通の便を確保するために運行が始まったコミュニティバスの利用者は、直近の3年間で見ると増減はほとんどなく、年間約二万人ほどで推移しています。百円で利用できることもあり、路線バスが行き届いていない地域の方々の重要な移動手段となっています。

停留所まで歩いて行けない

路線バスやコミュニティバスが地域の移動手段となっている一方で、高齢化が進み、バスの停留所まで歩いて行けなくなってきた方が増えているという課題もあります。また、移動手段がないということは、買い物や病院に行くこともできなくなり、一人では生活ができなくなることであります。少子高齢化、地域の過疎化が急激に進む中、公共交通機関だけに頼らず、地域の足を支える取り組みがますます重要になってきています。

